

野菜

5月の干ばつと高温の影響で初期生育の遅れなどが多く見られ、品目によっては定植後の枯死が見られました。6月に入ってから断続的な降雨があり、生育が回復したものの、急激な肥料吸収があったため全体的に肥大傾向でありました。夏場の高温によって、夏野菜については棚もちが悪く、単価も低迷した年となりました。

害虫については、少雨だったため虫の世代交代が早く、被害も多く見られました。

枝豆

作付面積72.7ha(前年比105%)、出荷数量185トン、販売額1億366万円と、昨年度に引き続き販売額1億円を超えることができました。

播種時期の干ばつによる影響も若干ありましたが、生育は良好で例年を上回る収量となりました。また、8月の高温の影響による収穫遅れや中晩生品種以降の倒伏等、次年度へ向けて多く課題も残る年となりました。

販売面では3年目となる「今朝採れたて枝豆」を市内量販店37店舗にて販売し、消費者にも広く認知され、安定した販売に取り組みました。



枝豆目揃え会(7月19日)

ネギ

春先の育苗期間での高温による影響で、苗の障害が多く見られました。ゴールデンウィーク以降の定植では、高温干ばつの影響を受け活着が進まず、3週間ほど生育が停滞しました。相場は昨年よりやや安い価格で始まり、8月から神奈川県市場へのコンテナ出荷を始め、秋冬ネギについては10月から神奈川県市場へ出荷を行い、価格維持に努めました。

病害虫は、雨が少なかったため虫害が多く、同時に定植後の干ばつによって除草剤の効きが悪い圃場が多く、雑草に苦勞した生産者が例年より多く見られました。

次年度も研修会や巡回を行い、技術の向上及び市場での有利販売に努めてまいります。



夏ネギ立毛品評会(7月24日)

菊

干ばつによる高温の影響で、虫の発生が多く全体的に品質への影響が多く見られました。

収量は平年並みであったものの、単価において7月から8月の頭にかけて全国的に出荷ピークが重なり、お盆向け出荷では市況価格の暴落に繋がりました。彼岸以降についても害虫の影響による品質低下が見られたものの、単価は平年並みまで回復しました。

花き

ダリア目揃え会(9月4日)



ダリア

作付面積5.0ha、出荷数量22万本、販売額3500万円と計画に対しては未達であります。年々販売額が増加しております。

7月から8月の生育期において、一部生育停滞や高温障害(葉ヤケや茎曲がり等)の被害がありました。全国的にも高温障害が影響したことにより出荷量が少なく、10月後半からは高単価で推移いたしました。

販売促進活動では、9月20日にJA秋田なまはげ、秋田市、男鹿市、潟上市によるトップセールスを行い、JA秋田なまはげ産の菊とダリアをPRし、品質の良さを紹介いたしました。



菊立毛品評会(7月10日)